

川辺物語 1051-1062, After1485

記 2026.01.10



義孝は飽田城（あきたじょう）近郊の岩見沢に陣を構え飽田城を救済、岩見沢付近を鎮圧（制圧）し川辺郡（旧河辺町、現秋田市）とした秋田岩見沢湊安東領

妻が藤原経清の姉妹
藤原経清（つねきよ）は藤原清衡（きよひら）の父

藤原の血を引く者（二子 川辺宗家）出生は青森県五所川原市らしい

後三年の役が終わった頃（1087年）、平泉の藤原清衡から家臣になるよう要請されたが、断っている清衡が叔父にあたるため、血筋のものからの家臣要請は避けた

孝幸は前九年の役で武勲（現代表現でMVP）を挙げる
(孝幸は安倍頼時（頼時の初名は頼良）の重臣の一人だった)
頼時の息子、安倍貞任より紋（丸に菱木瓜）の入った兜・胴を賜る
(頼時より貞任が預かっていたものを賜る)

安倍頼時は同族の安倍富忠軍より襲撃を受け、
安倍頼時に矢が当たり、翌日死亡した

安倍富忠（は北半島（恐山地帯）の族長。
猿ヶ石川（現遠野市宮守付近）に陣を構えている
内源氏の奸言にのって、頼時軍の情報を知らせ反忠した。

孝幸は号泣し、独り毘沙門天神楽で用いる神面を付け安倍富忠陣へ侵入し、家臣360人、富忠を斬り、仇討ちし、富忠の首を宗任陣（鳥海柵）に持ち帰ったこの時、安倍宗任等は川辺氏の忠節に賞賛した

安倍頼時の遺体は和賀の極楽寺へ仮埋葬された
以来、川辺孝幸改め、日高見太夫孝幸と号した

孝幸は前九年の役が終わってから和賀の金山奉行を任せられた
(名前を日高見太夫に変えていた為、政府側が分からなかった)

安倍頼時の遺骨を石塔山荒覇吐神社（大山祇神社）へ移した
1975年7月26日（安倍氏聖地）（現五所川原市）

孝幸は1075年以降3年毎に十三湖を訪ねた（青森県十三湖付近 十三湖柵）

孝幸の遺骨は、和賀と五所川原に分骨された可能性が高い
川辺一族は、五所川原→和賀（江刺柵・鳥海柵）と移住した可能性が高い

川辺一族の多くは、秋田岩見沢湊安東領に移住したが、宗家は和賀に留まる
(移住の理由は、南部武田陸奥守に和賀の知行を取潰された為)

前九年の役とは、1051年に起きた、源氏側（政府・源頼義軍、出羽国・清原氏軍）と安倍氏側（及川氏、岩崎氏、国見氏、安東氏、安倍氏、川辺氏等）との12年戦争。
安倍氏は1062年に滅ぼされる。川辺氏は安倍氏に仕えていた重臣の一人だった。
川辺氏は安倍氏だけに忠誠を誓っていたため、安倍氏滅亡後は誰の家臣にも付かなかった。
(故に和賀氏の家臣に名を連ねていない)

